



2025 年 12 月 3 日
株式会社日本線路技術
株式会社スマートシティ技術研究所

日本線路技術とスマートシティ技術研究所、業務提携契約を締結
～アプリケーションと AI で、保線業務の DX を加速～

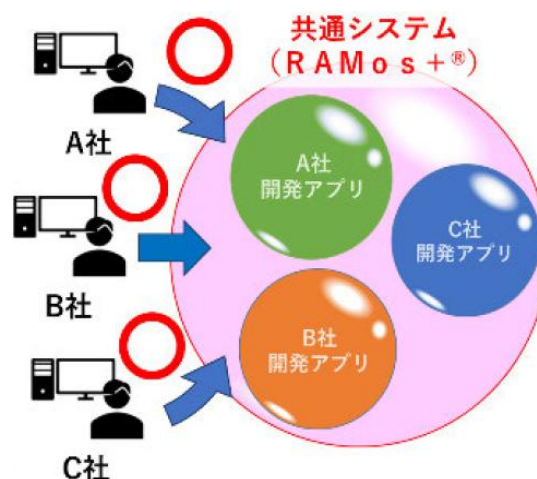
- 株式会社日本線路技術（以下、NSG）は、軌道状態のデータを管理する共通データプラットフォームである「RAMoS+[®]」^{※1}を構築し、線路メンテナンスのCBM^{※2}を進化させる取り組みを行っています。こうした取り組みをさらに発展させるため、オープンイノベーションを推進しています。
- NSG は、東京大学発ベンチャーの株式会社スマートシティ技術研究所（以下、スマ研）と、AI およびアプリケーション開発に関する業務提携契約を締結しました。両社の協業により、開発のスピードを高め、保線業務の DX を加速します。

※1 RAMoS+[®]：ラモスプラス（Railway track Advanced Monitoring operating system Plus(+)）

※2 CBM：線路状態を高頻度で把握して最適な時期に補修を行うメンテナンス手法（Condition Based Maintenanceaintenance）

1. 保線管理システム「RAMoS+[®]」

「RAMoS+[®]」では、各鉄道事業者の線路設備モニタリング装置から取得したデータの処理を、同一プラットフォーム上で行うことができます。また、各社が使用しているアプリ等を共有して使用することが可能となり、さらに、各社で取得される高頻度の軌道データを集約することで、膨大なデータの蓄積が実現され、線路状態の分析精度の向上や、技術・知見の共有を通じて、線路メンテナンスにおけるCBMの進化が一層加速すると期待されます。



システムイメージ

2. 業務提携契約の締結

NSGは「RAMos+[®]」を基盤としたオープンイノベーションを推進しておりスマ研との業務提携契約の締結により、NSGが保有する線路管理の専門知識と、「RAMos+[®]」に蓄積されたデータ、スマ研のAI／アプリケーション開発の知見を融合し、線路管理におけるCBMの実装と高度化を加速します。両社は、①線路管理×ITのコンサルティング、②AI等のロジック開発、③アプリケーション開発、④現場への実装、⑤導入後の運用・定着化まで、一気通貫で協業します。具体的な取り組み内容や期間・体制等の条件は、個別案件ごとに協議のうえ決定します。

3. NSGとスマ研の概要

(1) NSGについて

線路専門の技術コンサルタントとして、検査・計測・調査・設計から、線路設備モニタリングやビッグデータ活用まで一貫支援しています。「RAMos+[®]」を展開し、データを活用した線路メンテナンスのCBM実現を支援します。

(2) スマ研について

2019年8月設立の東京大学発ベンチャーであり、土木工学の基礎理論とAI・センシング技術を組み合わせ、社会インフラ維持管理のDXを推進しています。主力ソリューションには、道路点検プラットフォーム「GLOBAL-EYEZ×ROAD」があり、一般車両に搭載したスマートフォンから取得した画像・応答をAI等により解析し、道路異常箇所（ひび割れ、ポットホール、ガードレール不良など）を網羅的に検知・評価できるシステムを国内外の道路管理者に展開しています。

【お問合せ先】

株式会社日本線路技術 線路DX事業部 03-5284-9125

株式会社スマートシティ技術研究所 営業戦略部 03-6823-0885